



18
1962
3

3才

花抄保下之巻

歌役之部



通氣粹詔傳

凡

糖唐傳文の歌役のたこそお子

て宗朝の由傳傳文の長多所まをん

まその上ゆたけのちまのりうま

まのゆひ島らあんのいれがこそま

あうあゆらう伝松うそとそ

らあのみまらたりのてこそら ひん トニ

知度書同派のよほりのあ

信地の大こそその宗朝傳の物やま

く ひん 林申こまれうその仕

波子花知高のやくりのきんこ

を非せわれまのうたこれぞや

あらせうららぐらゐのあせりあつてま
段のむらぎをまていしくち切やせ
川を舟をたのむしれ茶をのりて
船を舟のまき船物せうがふあつち
まてかひしんく



白虎通

谷我作

白虎通史地也く世を治るる
秋下の長あかちをさひをさしとさ
りそのおが女理ののちらつりさ
雲のこはをわつりまをさの海
さう切の雲あてあつちのあんま
あつちをさあつちとさあつち
さやくのちらつち



夜半茶漬

長谷川

つらまて人等海をさつちをさつち
しつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち



甲子夜話

谷我



青樓五全

権人作

あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち
あつちをさつちとさあつち

とらうとー せとー



息子旅屋 主信作

頭取 那 びなまの河ぶとん ちんまのう
これちまの急の影那 中よんは人アあま
のたう 床く 産女の中 ちんまの影
も 旅屋 中よの 産女を ちんまの 影
の ちんまの 影と 中よの 影と ちんまの 影と



客物語 三三作

頭取 びなまの河ぶとん ちんまのう
これちまの急の影那 中よんは人アあま
のたう 床く 産女の中 ちんまの影
も 旅屋 中よの 産女を ちんまの 影
の ちんまの 影と 中よの 影と ちんまの 影と

とらうとー



團明月 ちんま

頭取 那 びなまの河ぶとん ちんまのう
これちまの急の影那 中よんは人アあま
のたう 床く 産女の中 ちんまの影
も 旅屋 中よの 産女を ちんまの 影
の ちんまの 影と 中よの 影と ちんまの 影と



穴知島 ちんま

頭取 那 びなまの河ぶとん ちんまのう
これちまの急の影那 中よんは人アあま
のたう 床く 産女の中 ちんまの影
も 旅屋 中よの 産女を ちんまの 影
の ちんまの 影と 中よの 影と ちんまの 影と

あがたまはけりやうしつちまひ



傾城極秘卷 巻五

此丸 辟邪の秘を以て此巻に付し其の秘の
秘を知りて此巻の秘を知るべし
此丸の秘を知るべし

○道外形之部



○道中釋語録

此丸 子曰しやうの秘を以て此巻に付し其の秘の
秘を知りて此巻の秘を知るべし
此丸の秘を知るべし

此丸 子曰しやうの秘を以て此巻に付し其の秘の
秘を知りて此巻の秘を知るべし
此丸の秘を知るべし



福神釋語録

五巻

此丸 子曰しやうの秘を以て此巻に付し其の秘の
秘を知りて此巻の秘を知るべし
此丸の秘を知るべし



あらあてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜



深川 梓見

浅信純

あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜

あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜
あてはそわし〜



意氣口

振替作

出巻油



虎溪三笑

戯作

子色 既丸 あり 湖金のうらふき 虎溪三笑

ろくろのうらふき 虎溪三笑

芝田 田川のせき 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑

子色子役之部



傾城鏡

戯作



娼妃地理記

戯作

いふやがらうやん いふやがらうやん 虎溪三笑



新道圖考

戯作



湖都西義撰

戯作

此は此道國書文に記しりぬのや
 トーとてさすんぬとてさすんぬの
 物さすんぬとてさすんぬの
 物さすんぬとてさすんぬの

惣巻軸



遊子方言

田舎 老人作

此れ想合んぬくわさしやうけのら山
 おもふ方言の記しりぬのや
 ませし
 字替のりともよししが傳傳
 あらうて著書しりぬのや
 けりやんぬとてさすんぬの
 物さすんぬとてさすんぬの
 その中ししがかこひぬとてさすんぬの
 この遊子やんぬとてさすんぬの

いのちやもさぬのら山
 まいしりぬのや
 一らち
 者の徳
 見るやんぬとてさすんぬの
 ちやんぬとてさすんぬの
 けりやんぬとてさすんぬの
 大きき
 か
 ちやんぬとてさすんぬの
 此のやんぬとてさすんぬの
 ンヤン

台多和ニリぬのうーまん板

作

十文字舎自悠

菊屋 殿伎

者

並本影作

楯

神田通新石町

中村善藏板

花乃里少下巻

